城山エコミュージアム通信

平成２９年（２０１７）８．１５　第３２号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

地域紹介

谷ヶ原
てんとお（太陽）屋敷のあるところ

谷ヶ原は地形に恵まれた所です。北側に適度な高さの山を背負い東・西・南側が開けている原があり、日の出から日の入りまでの日照時間が長いので、昔から「てんとお屋敷」と呼ばれてきました。

左の写真は昨年の冬至の夕暮、「国指定川尻石器時代遺跡」から撮影した城山山頂に夕日が沈んだ直後の景色です。城山の手前には相模川が流れています。この恵まれている地に二万年以前の人々の痕跡が残され、特に縄文時代の生活の遺物が沢山発掘されています。

なお写真手前の草地は相模原市が買い上げ、今後の遺跡の整備や運用が待たれています。

写真右の樹木の右が「県営谷ヶ原浄水場」です。

谷ヶ原の人々の生活を大きく変えたのは昭和十年代に推進された「神奈川県河水統制事業」と「相模原を軍都にしようとした当時の軍部」の計画でした。

神奈川県は陸軍が諸施設を設置するという事態に対応し、相模原を理想的工業都市にするために相模原都市建設上水道事業を実施することにしました。

この県営による相模原水道建設に、軍は相模原兵器製造所の水道設備費として、県へ百万円の交付や工事用材料の配給などに極力援助し、工事は進められました。そうして谷ヶ原は農地を失い浄水場の施設と発電所関連施設になり水と電気の供給基地として、現在の市民生活を支えています。（樋口孝治）

写真　右　谷ヶ原浄水場のホームページより

県営谷ヶ原浄水場・分水池・津久井発電所

知ってナットク！ しろやま

城	山
検	定

城山地区のカエル

カエルが棲む水辺の環境の減少からカエルを見る機会は最近少なくなってしまったようで、この城山地区も例外ではないようです。

次のカエルのうち、このあたりにいないカエルはどれでしょう？

①ニホンアマガエル　②ヤマアカガエル　③シュレーゲルアオガエル　④トノサマガエル　⑤カジカガエル

今回のトピック

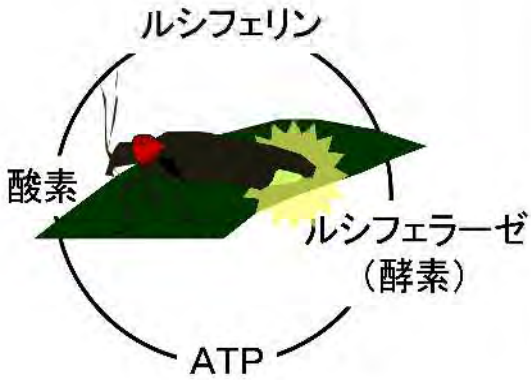
■地区紹介「谷ヶ原」
■城山検定「城山地区のカエル」
■ホタルはなぜ光る？「小松・穴川」
■シリーズ養蚕「大島の養蚕・漸進社」
■身近な石造物　船地蔵
■城山エコミュージアムツアーのお知らせ
■しろやまミニ図鑑「イタチ」
■活動報告、活動予定他

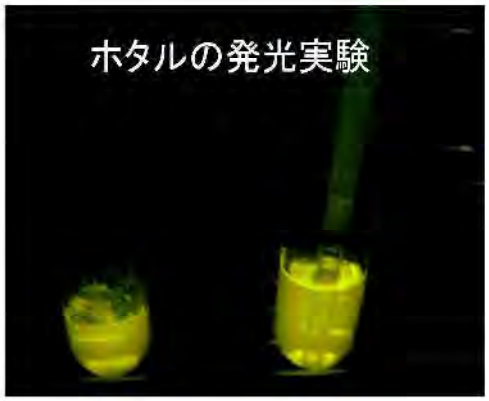
ホタルはなぜ光る？

6月の半ばから7月の初めにかけて、境川の源流域（小松、穴川）では2種類のホタルを見ることができます。ゲンジボタルは体長1.5-2㎝、幼虫は小川など（流水）を，それよりも小ぶりのヘイケボタルは体長 1㎝ 前後、幼虫は田んぼなど（止水）をすみかとしています。成虫になったゲンジボタルの寿命はわずか 1-2 週間です。水辺に産みつけられた卵は1ヶ月ほどでふ化します。幼虫はおよそ 9 か月の水中生活に入り、カワニナなどを食べて成長します。翌年の春、幼虫は岸辺の地中にもぐりさなぎになります。およそ1ヶ月後、さなぎから脱皮（羽化）した成虫は光ながら水辺を飛び交います。

ホタルはなぜ光るのでしょうか。仲間同士の会話、オスとメスの合図、食べられないように脅すためなどが考えられています。ゲンジボタルの会話には「なまり」があります。オスのホタルが飛翔する時の明滅間隔は糸魚川静岡構造線を境に異なります。ホタルの腹部の気門から取り込まれる酸素や体内で生成する一酸化炭素が、発光のリズムに関わるとの説があります。闇の中に見るホタルの光は神秘的ですが、その発光には最先端の研究にも使われる化学反応が関わっています。ホタルの光は「冷光」と呼ばれ、エネルギー変換効率の良い発光です。この発光は試験管の中で再現することができます。（佐々木 徹）

ホタルの発光のしくみ





再発見
身近な石造物

第3回　舟地蔵（谷ケ原・大正寺）

石造物の中には、仏さまが彫られたものも多く見ることができます。中でもお地蔵さまは、人々の苦難を身代わりとなり受けて救ってくれる仏さまとして、また子どもや水子供養においても広い信仰を集めています。加えて、道祖神と習合したため、路傍で石像が多く祀られています。

谷ケ原地区の大正寺には、変わったお地蔵さまが立っています。このお地蔵さまは、台座が舟の形になっている珍しいもので、通称“舟地蔵”と呼ばれています。

言い伝えによると、江戸時代の中頃（享保年間）、相模川で溺死する人が多くありました。中でも谷ケ原と向原の人が多かったので、両集落の有志が集まり、相談して舟に乗ったお地蔵様を建てて霊をなぐさめようと祀ったもので、建てたその年から水死人が無くなったといいます。

参考：『城山町史』４資料編　民俗　　（齋藤雄也）

活動レポート

委員会では毎月の定例会で学習会を行っています

テーマ：　「森林の不思議な力・フィトンチッド」

森の中に入るといい香り（匂い）がして身も心もリフレッシュされ爽快な気分になりませんか。この香りは森の中の主に樹木が自分で造り出し発散している揮発性物質で、主にテルペン類と言う有機化合物です。この香りをフィトンチッドと呼び、この香りを私たちが身体に浴びるのが森林浴です。

樹木は自分からその場を移動する事は出来ません。昆虫や微生物などから攻撃や刺激を受けても逃げる事が出来ません。そこで自分自身の身を守る為にそれぞれが特殊な匂いを発散して自己防衛しているのです。そして、私たちの暮らしの中でもフィトンチッドの働きが多く利用されています。

例：桜餅（サクラの葉・クマリン）柏餅（カシワの葉・オイゲノール）・・・抗菌・防腐作用

クスノキのタンスや防虫剤（クスノキ・カンファ）・・・抗菌・防虫作用

寿司をのせる台（ヒノキ・カンファ、αピネン）（サワラの葉・酸化防止作用）・・・抗菌・防腐作用など。

これらは、人体に安全な天然物質なので、副作用の心配がなく穏やかに作用します。

こうした見えない所でも私達はフィトンチッドのお世話になっているのです。　（塩谷弘道）

参考文献：森林の不思議：「フィトンチッド」フィトンチッド普及センター

テーマ：大島地区とは

大島地区は川尻と田名地区の間にあり、相模川沿いの細長い地形です。

上大島～中の郷～常盤～古清水の４か所になります。上大島の相模川自然の村の中には、公園、キャンプ場、宿泊施設と古民家園（江戸時代のお寺の住居建物）などがあります。

諏訪神社では一人立ち三匹獅子舞が有名。大島や田名地区特有の段丘崖の湧水ヤツボが３カ所、中の郷のヤツボ、古清水のヤツボ、水場のヤツボがあり、水場のヤツボは倶梨伽羅不動（石仏）が祀られていて整備され見学ができます。

シリーズ 養蚕

第9回　　大島地区の養蚕

大島地区は、明治～大正～昭和にかけて養蚕が盛んにおこなわれていて、周りはほとんど桑畑でした。明治１９年（１８８６）、地区の１６人で「漸進社」を大島榎木戸に作りました。市域の養蚕農家が持ち寄った繭を預かり、糸取り、場返をして糸の品質を統一し、荷作りを一定にして共同販売していました。大正２年（１９１３）に、年間生糸生産が１９トンを超えて全国で４番目の大きな会社になりました。

工場は、煮繭場５人、糸取り工女５０人（多い時で１００人）、揚げ返し場５人、撚糸５人、釜焚き、倉庫１０人、教婦２人が働いていました。

昭和６・７年（１９３１・１９３２）に世界恐慌で生糸が大暴落、昭和１２年漸進社は閉鎖しました。そして、平成２２年、大島地区では養蚕は終わりました。

参照　相模原市史　（山口俊明）

漸進社　昭和３年の写真
製糸作業をする工女。（結婚前の娘で、全員住み込み）（髪飾りを付けている）着物にエプロンで足元は素足に下駄。
ＳＯ式二十条多条繰糸機３列で３０台以上が操業している。

INFORMATION

津久井湖誕生前の相模川

「城山エコミュージアムツアー」いよいよ開催！

テーマ：「津久井湖誕生」
～昔を探して今を歩く～

・開催日　：平成２９年**１０月２１日（土）**午前９時～午後４時
　　＊雨天の場合は１０月２２日（日）に順延します。
・内　容　：津久井湖誕生の歴史と、周辺の昔を探しながらガイドと一緒に歩きます。
・集合解散：津久井湖水の苑地　管理事務所前（津久井湖記念館のとなり）

さて、ここがどこだかわかりますか？

・参加費　：５００円　（当日集金します）
・定　員　：４０名（先着順とします）
・企画運営：相模原市立城山公民館城山エコミュージアム委員会
・申し込み：城山公民館
　　電話：０４２－７８３－８１９４（直通）
＊月曜日・祝日の翌日を除いた午前８時３０分～午後５時まで。
＊申し込み期間は、９月１日から１０月１４日（土）まで。

しろやま ミニ図鑑

イタチです

３月下旬のことです。何気なく庭を眺めていたら、尾が長く茶褐色の小動物が草の間を動いていました。「ん!?あれは何!?タヌキではない！」それはイタチでした。体毛はモコモコしていて動きはとても敏捷。顔はかわいらしいものでした。こちらが見ているのをわかっているようでしたが、慌てて逃げる様子はありませんでした。

イタチはネズミや鳥、昆虫類など動物食ですが、サクラやヤマブドウなどの実も食べます。どこから来たのか、庭に現れたイタチを偶然、見ることができたのですが、私達が出会わないだけで、案外身近に棲んでいるのかもしれません。あらためて里山の自然の豊かさ、奥深さを感じました。（小松地区：金子直美）

≪報告≫

さる平成２９年４月２３日、城山エコミュージアム運営委員会総会が、城山公民館で開催されました。

まず城山公民館新体制の紹介があり、城山エコミュージアム運営委員会は城山公民館専門部の「城山エコミュージアム委員会」と名称が変更になり、承認されました。

今年度からこの名称で、城山エコミュージアムツアーや、各種団体の企画ガイド、地域の研究、広報活動など、エコミュージアム活動の事業計画を推進していきます。

城山検定 解説

トウキョウダルマガエル

答え：④トノサマガエル

トノサマガエルは関東平野には棲んでいないと思われます。ここ城山ではトノサマガエルにそっくりなトウキョウダルマガエル(神奈川県レッドデータ絶滅危惧Ⅱ類)が棲んでいます。
シュレーゲルアオガエルは博物学者にちなんだ名前で、日本固有種です。
城山地区には他にもアズマヒキガエルやツチガエル、タゴカエルなども棲んでいます。
いつまでも、カエルが棲み続けられる環境を守って行きたいものです。（山口雅之）

編集後記

城山エコミュージアムが城山公民館の専門部会に仲間入りして最初の通信です。
旧城山町の文化や自然、発見等、知りたい、知らせたいと思う情報を掲載し、次号が楽しみな紙面にしたいと思います。みなさまの投稿をお待ちしています。（宮崎　紀美子）

企画/作成：相模原市立城山公民館城山エコミュージアム委員会
発　行：相模原市立城山公民館
TEL：042-783-8194【直通】
FAX：042-783-1721
ホームページをパソコンで見る時は
相模原市　城山エコミュージアム　検索
相模原市立城山公民館ホームページ　http：//www.sagamihara－kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html